

事前評価個表

整理番号	7
------	---

地域（地区）名	いわき 磐城	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	福島県	対象市町村	いわき市ほか 12 市町村
事業実施期間	R5 年度～R9 年度（5 年間）	事業実施主体	県、市町村、ふくしま緑の森づくり公社、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>本地区は、福島県の東部に位置し、太平洋と阿武隈高地に挟まれた南北に細い「浜通り」と呼ばれる地域で、3市7町3村からなり、総土地面積は297千haで県土の22%を占める。森林面積は204千haで、民有林が118千ha（58%）、国有林が86千ha（42%）となっており、うち民有林の人工林面積は62千ha（人工林率53%）で、主な造林樹種はスギやアカマツであり、いわき市夏井川付近より南側にスギの造林地が分布しており、これより以北の地域はアカマツが多くを占めている。</p> <p>特に間伐等を必要とする3～12 齢級の林分は、48千haで人工林の77%を占めており、その適正な管理は急務であるが、林業採算性の悪化や原発事故による放射性物質の影響により森林所有者の林業経営意欲が減退し、継続的かつ適正な森林整備が困難な状況になっている。また、主伐期を迎えつつある人工林の伐採後の確実な再生林の実施が必要となっている。</p> <p>当県では、福島県農林水産業振興計画において、ふくしまの目指す将来の姿として「活力と魅力ある農山漁村の実現」等を掲げており、水源涵養など多面的機能を有する森林を適性に管理していくことはもとより、コンテナ苗やエリートツリーを活用した伐採と造林の一貫作業や低密度植栽等により作業の省力化・効率化を進めるほか、構造材や内装材に加えバイオマス燃料などにより木材需要を拡大し、森林資源の循環利用の促進を図ることとしている。また、林業・木材産業の再生を図るため、森林経営計画の樹立による一体的で効率的な施業と、ふくしま森林再生事業による放射性物質対策と一体となった森林整備の推進を図る必要がある。そのため、適正な森林整備を実施し、森林の多面的機能の維持増進と間伐材の利活用等を推進していく。</p> <p>本事業では、磐城地域森林環境保全整備事業計画に基づき、10t 積みトラックの走行が可能な規格を有した木材輸送の中核を担う林業専用道等の路網整備及び間伐や再生林等による森林整備を一体的・計画的に実施する。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：3,873ha 人工造林、下刈り、除伐、保育間伐、間伐、更新伐等</p> <p>路網整備：7,800m 林道開設</p> <p>総事業費：1,053,346 千円（税抜き：957,588 千円）</p>

費用便益分析結果	$B/C=3.27$ (総便益 (B) =4,086,221 千円 、総費用 (C) =1,249,926 千円)
評価結果	<p>必要性：整備の行き届いていない森林が存在しており、森林の有する水源涵養機能等の公益的機能の持続的な発揮を図るためには、間伐や再造林等森林の整備及び保全を進める必要があり、事業の必要性が認められる。</p> <p>効率性：費用便益分析結果から十分な効率性が認められるとともに、路網の整備による効果的かつ効率的な森林整備を推進することとしており、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：森林整備によって、森林の有する水源涵養機能等といった公益的機能及び木材等生産機能の維持増進が図られるため、事業の有効性が認められる。</p>

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

都道府県名：福島県

地域(地区)名：^{いわき}磐城

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	549,135	
	流域貯水便益	163,703	
	水質浄化便益	602,380	
山地保全便益	土砂流出防止便益	527,265	
環境保全便益	炭素固定便益	584,958	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	38,062	
	木材利用増進便益	68,155	
	木材生産確保・増進便益	1,074,749	
森林整備経費等縮減便益	造林作業経費縮減便益	6,775	
	森林管理等経費縮減便益	2,062	
	森林整備促進便益	468,977	
総 便 益 (B)		4,086,221	
総 費 用 (C)		1,249,926	
費用便益比	$B \div C = \frac{4,086,221}{1,249,926} = 3.27$		

森林環境保全整備事業磐城地域(福島県)

